

## 令和6年度 事後評価点検表（内部評価）

### 1 事業概要

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 事業名                   | いきいき水路モデル事業（玉串川地区）  |
| 担当部署                  | 環境農林水産部 中部農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 072-994-1515）   |
| 事業箇所                  | 八尾市二俣～山本町南  |
| 事業目的及び事業内容            | <p><b>【事業目的】</b><br/>八尾市域を南北に流れる玉串川は、地域の農地 84.6ha をかんがいするための重要な農業用水路である。しかしながら、近年、護岸の老朽化が著しく、大きく育った桜の樹根の影響もあり、至る所で護岸ブロックや石積が崩落し危険な状況となっていた。</p> <p>このようなことから、護岸の整備を行い、崩落や溢水被害を未然に防止し、農業用水路の機能の確保及び農業経営の安定を図り、さらなる地域の良好な景観の確保等を図り、地域住民により良い環境を提供することができた。</p> <p><b>【事業内容】</b><br/>事業区間 L=3,231m</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水路工 L=3,231m（事業区間）</li> <li>防護柵設置工 L=1,813m（事業区間）</li> </ul> |
| 関連事業とその現状             | —   |
| 社会経済情勢の変化             | ・最終評価時点（H30 再評価）と完成時点（R元）とで、本事業をとりまく社会経済情勢に大きな変化は見られない。   |
| 事業実施による自然環境の変化        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・護岸の整備にあたっては、現景観が失われないよう、石積等の景観に配慮した素材を用いることにより、自然な景観を維持することができた。</li> <li>・玉串川には希少種は確認されなかったものの、多種多様な生き物が生息していることから、工事施工にあたっては、半川締切や低排出ガス機械を使用するなど、環境に配慮したことにより自然環境の大きな変化はない。</li> </ul>  |
| 最終評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応 | —   |

### 2 事業効果の分析等

|  | 最終評価時点 H30  | 事後評価時点 R6   | 変動要因の分析                   |
|--|---|---|---------------------------|
| 事業費                                    | 全体事業費：約 10.3 億円<br>[国：5.1 億円、府：2.6 億円、市：2.6 億円]<br><br>（内訳）調査費等 約 0.3 億円<br>補償費 約 0.3 億円<br>工事費 約 9.7 億円  | 全体事業費：約 10.2 億円<br>[国：5.1 億円、府：2.55 億円、市：2.55 億円]<br><br>（内訳）調査費等 約 0.3 億円<br>補償費 約 0.3 億円<br>工事費 約 9.6 億円  | 工事費入札差金による減               |
| 経過<br>①事業期間<br>②採択年度<br>③着工年度<br>④完成年度 | ① 11 年<br>② 平成 21 年度<br>③ 平成 21 年度<br>④ 令和元年度   | ① 11 年<br>② 平成 21 年度<br>③ 平成 21 年度<br>④ 令和元年度   | 予定通り完成                    |
| 定量的効果<br>(費用便益分析等)                     | <p><b>【効果項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害防止効果 138,343 千円</li> <li>・維持管理費節減効果 -1,338 千円</li> </ul> <p><b>【分析結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総費用総便益比=2.29<br/>総便益=18.50 億円<br/>総費用=8.06 億円</li> </ul> <p><b>【算出方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな土地改良の効果算定マニュアルにより算出</li> <li>・総便益<br/>災害防止効果や維持管理費節減効果など、評価期間における効果額を現在価値化し算出</li> <li>・総費用<br/>当該事業による費用に資産価額及び評価期間（当該事業の工事期間+40 年）における再整備を加え、評価期間終了時点の資産価額を減じた事業費を現在価値化し算出</li> </ul> <p><b>【受益者】</b><br/>受益農家、地域住民</p> | <p><b>【効果項目】</b></p> <p>同左</p> <p><b>【分析結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総費用総便益比=2.48<br/>総便益=18.50 億円<br/>総費用=7.45 億円</li> </ul> <p><b>【算出方法】</b></p> <p>同左</p> <p><b>【受益者】</b></p> <p>同左</p> | 全体事業費の減少により、総費用総便益比が増加した。 |

|   |   |  |                     |
|---|---|--|---------------------|
| <p>事業効果の<br/>定性的分析<br/>(安全・安心、活力、<br/>快適性等の有効性)</p> | <p><b>【効果項目】</b><br/>         &lt;安全・安心&gt;<br/>         水路の安全性が向上し、護岸崩落などによる溢水等の被害を未然に防止することができ、安全な生活環境が形成される。</p> <p>&lt;活力&gt;<br/>         農業用水路の機能が確保され、農業経営の安定を図るとともに、地域農業の振興に寄与する。</p> <p>&lt;快適性&gt;<br/>         身近で快適な水辺環境が創出され、人々にやすらぎとうるおいを与える。</p> <p>&lt;その他&gt;<br/>         国際かんがい排水委員会において「世界かんがい施設遺産」として平成30年8月13日に登録された歴史的に由緒ある玉串川を保全することができる。</p> <p><b>【受益者】</b><br/>         受益農家、地域住民、府民</p> | <p><b>【効果項目】</b><br/>         &lt;安全・安心&gt;<br/>         護岸の整備を行ったことにより、水路の安全性が向上し安全な生活環境が形成された。</p> <p>&lt;活力&gt;<br/>         農業用水路の機能が確保されたと共に、維持管理の省力化が図られたことにより地域農業の振興に寄与した。</p> <p>&lt;快適性&gt;<br/>         張出歩道護岸等の設置により、身近で快適な水辺環境が創出され、人々にやすらぎとうるおいを与えることができた。</p> <p>&lt;その他&gt;<br/>         同左</p> <p><b>【受益者】</b><br/>         同左</p> | <p>所期の目的を達している。</p> |
| <p>その他特記事項</p>                                      | <p>—</p>  |  |                     |

### 3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| <p>評価結果<br/>(事業効果の発現<br/>状況等)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・護岸の整備を行ったことにより、崩落や溢水被害を未然に防止し、農業用水路の機能の確保及び農業経営の安定を図ることができた。</li> <li>・石積等の景観に配慮した素材を用いることにより、地域の良い景観の確保等を図り、地域住民により良い水辺空間を提供することができた。</li> </ul> |
| <p>今後の同種事業に対する改善措置等</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい財政状況中であるが、効果的に予算を配分し、防災効果の発現や生活環境の改善がなされるよう努めることが重要と考えられる。</li> </ul>  |